

牛伝染性鼻気管炎（IBR）の発生について

○発生状況

発生場所：那須塩原市青木

病性決定日：2021年6月22日（火）

農場の概要：ホルスタイン種（23か月齢）

発生頭数：1頭

発生概要：

6月17日に管理獣医師から結膜炎、流涙、目やになどの症状が初産牛で広がっているとの病性鑑定依頼。同日、家畜保健衛生所職員が農場に立入り、結膜炎、流涙を呈する牛7頭中について、血液、眼窩及び鼻腔拭い液を採取し、ウイルス検査及び細菌検査等を実施。その結果、6月22日に7頭中1頭からIBRウイルスが分離されたため、本症と診断した。

○衛生対策

- ① IBRの予防には、ワクチン接種が有効です。ワクチン未接種牛については、ワクチン接種を行きましょう。
- ② 導入牛については、導入元の衛生状態、ワクチン接種歴を確認しましょう。
- ③ 伝染性疾病の侵入防止、まん延防止のため、畜舎消毒、衣服・長靴の交換・消毒等の衛生対策を徹底しましょう。
- ④ 飼養牛に異常が認められた際には、速やかに家保に連絡してください。

【牛伝染性鼻気管支炎（IBR）】

牛ヘルペスウイルス1型の感染による牛の呼吸器病（届出伝染病）で、発熱、呼吸速迫、発咳、水様性鼻汁、泡沫性流涎、流涙、結膜炎等の感冒症状を示し、時に生殖器の炎症や流産を起こします。一般に死亡率は1～3%で10日から2週間の経過で回復しますが、細菌との混合感染により肺炎や気管支炎を併発すると重篤化し予後不良となります。

県北家畜保健衛生所

TEL 0287-36-0314（夜間・休日090-7205-1826）

FAX 0287-37-4825